

教材「小樽の歴史」の活用状況について

【小学校での活用について】

1 「小樽の歴史」の位置付けについて

市内の全小学校において、教材「小樽の歴史」を5年生の総合的な学習の時間で10時間以上学習することを教育課程に位置付け、活用することを基本としている。

2 活用方法について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校内のカリキュラムが大幅に変更されており、多くの学校で今後、教材「小樽の歴史」を活用した授業が実施されることとなる。市教委としては、その際、机上で学ぶだけではなく、外部講師の活用や施設見学などの体験的な活動を積極的に取り入れ、学習を深めるように指導している。

3 活用状況の把握について

今後、教育研究所で、各小学校における活用状況や外部講師の招聘等について調査を実施し、効果的な活用方法について校長会議等で指導助言する予定である。

【教員向け研修講座について】

1 「ふるさと教育研修講座」の実施

総合博物館の石川館長を講師として、市内小中学校の教員が、教材「小樽の歴史」の効果的な活用について知り、授業づくりに生かすための研修講座を実施。【当初は集合形式で実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、8月7日（金）～8月31日（月）まで、オンデマンドで実施した】

受講者は51名で、「市内の遺跡のことや開拓期の鉄道活用や港の盛衰の話など自分の知らなかった話が聞いて良かった」「子どもたち自身が『小樽に暮らす意義』『小樽のよさ』を感じたりできるような授業がしたいです」「本動画は、小樽のふるさと教育を進める上で、教師が知っておくと、より深みのある指導ができる内容だと感じました。また、動画による研修は、繰り返し視聴できるので、聞き逃すことなく受講者の理解が深まり、よい試みだと思いました」などの感想が寄せられた。

2 「教材『小樽の歴史』」活用実践研修会の実施

9月7日（月）、総合博物館で石川館長を講師として、教材「小樽の歴史」を活用した指導法を探るための研修会を実施。

18名の受講者からは、「せっかく小樽にいるのだから身近にいろいろなものが残っていることは伝えたいし、活用していきたい」「子どもが住む街の歴史を足でかせいで自分で調べられる魅力的な街であることを再認識しました」などの感想が寄せられた。